



家

まちづくり物語 2

ええとこわがまち
KASHIWARA委員会

まちづくりは

“人のつながり”

はじめに

「われわれは、まちづくりに関するプロジェクトの企画やコーディネートを通じ、知識と人材と資源を有機的に結びつけ、地域をより『魅力あるまち』、より『住みたいまち』に変貌させることを目標に、まちづくりを推進し、地域の活性化に寄与することを目的」(設立趣意書)として、社会的な位置づけや責任を明確にした活動母体が必要なことからNPO法人「まちづくりプロジェクト(略称:まちプロ)」を立ち上げた。それから5年半、まちづくりがどこまで前進し、どんな段階にあるのかの整理が求められている。

最初は、地域の資源、山と川の自然から「かしわら水仙郷」や「健康ウオーク」、「柏原ええトコ発見塾」をはじめた。さらに、まちづくりのカギを握る「ひと」に着目して、元気、ユニーク、魅力的な人材が、まちづくりの基盤となることから、人材の養成「まちづくり人創生塾」や、交流の場づくり「ええトコKASHIWARA円卓交流会」などを企画した。「新しい公共」事業は、中間支援NPOの機能強化のため、各種団体との連携を強め、それを報告書「まちづくり物語」(2013.3)にまとめた。

「まちづくり物語2」は、第2フェーズとして、大阪かしわらの産物「ぶどうとワイン」、毎日の暮らし生活を支え「中心市街地を形成する商店街」、人々の生活に潤いと豊かさを生み出す「地域社会とアート」をテーマに取り上げ、人やグループ・団体との交流を通じて、まちづくりの探索を行った。

この間の取組みの柱は二つあり、一つが「人や組織の連携」で、元気で頑張る人やグループ活動の課題を整理する場を井戸端会議として設定し、新たな展開を切り開けるよう支援してきた。また、もう一つの柱が、「情報の連携、マルチメディアな発信」であり、柏原の魅力資源を発掘、物語化し、ホットスポットシリーズとして発行する情報冊子、ええトコわがまちFacebookグループなど、柏原の魅力と資源の共有化を推進してきた。この「ええトコわがまちKASHIWARA」3ヶ年の作戦は、まちプロの設立目的に沿ってまちづくりの基礎段階を確実に切り拓いてきた。

まちづくりには、終わりはない。次のフェーズがどうなるかは、これから。そんな中、この冊子が、地域の皆さんのまちづくりへの問題意識の共有につながり、新たにまちづくりに熱い想いを持つ人が、生まれるきっかけになれば幸いである。

2015年5月9日

目次

まちづくり物語2

ええトコ・わがまちKASHIWARAとまちづくりプロジェクト報告書

第1部

まちづくり物語

まちづくりの実践的でユニークな取り組みから学ぶ

- | | | |
|----|------------------|----|
| 01 | ぶどうワイン戦略de大阪かしわら | 04 |
| 02 | 「お店が舞台」で勝負する商店街 | 07 |
| 03 | 「ありえない」からはじまるアート | 10 |

まちづくりのコンセプトとノウハウから学ぶ

- | | | |
|----|--------------|----|
| 04 | みんなで楽しくまちづくり | 13 |
|----|--------------|----|

第2部

まちプロ物語：ええトコ・わがまちKASHIWARA、まちづくりプロジェクト

フェーズ01 地域の資源は、山と川の自然から

- | | |
|--------------------------------|----|
| 柏原水仙郷、健康ウォーク、まちづくり道標、柏原ええトコ発見塾 | 16 |
|--------------------------------|----|

フェーズ02 地域の資源は、人とネットワーク

- | | |
|--|----|
| 「ええトコ・わがまちKASHIWARA」プロジェクト関連の
まちづくり物語、地域を育むワークショップ、ホットスポット物語、情報FBグループ | 20 |
|--|----|

第3部

柏原で元気で頑張るまちづくり団体

- | | | |
|----------------------|------------------|----|
| イーゼル芸術工房 | NPO法人かしわらいイネット | 26 |
| 柏原おいなーれガイドの会 | つなガール柏原 | 27 |
| 太平寺わしらのまちづくり委員会 | かしわらオガタ通り商店街協同組合 | 28 |
| 安全なお米・自然食品(根っこや) | サロン・おむすびころりん | 29 |
| 柏原市災害ボランティアコーディネーター会 | EMふれんず | 30 |
| 柏原ピエンナーレ作家会 | かしわら水仙郷を育てる会 | 31 |
| イエローライン・プロジェクト | くるくる | 32 |
| おいなーれ柏原ネットワーク | 柏原志民百年塾 | 33 |
| NPO法人まちづくりプロジェクト | | 34 |

「ありえない」からはじまるアートなまち

柏原ビエンナーレも第5回から地域を会場にしたアートイベントに広がった。しかし課題も多い中、地域がささえるアートとまちづくりシンポジウムを開催し、今後の展開を探ってみた。

STORY 1

アートなまちづくり戦略(構造)

▶アートとは何や

イナバウアーの荒川のスケート、サッカーの中田のプレーは、誰もが感動する、感動すればそれはアート
 凄いこと、心揺さぶるものがアート。ありえないことを楽しんでやる、それがアート
 アートとは、常識を超える存在であり、作ろうと思って作れるものではない

▶アートなまちづくりの構造

しくみ(イベント化)=拠点(たまり場)=ツール(地域素材、古民家、食、アート、ぶどう)以上3つの構造の複合
 アートには、わくわく感の期待が生まれるような希望の時間が大切

→アートは作るのが面白い、そのプロセスを楽しむ

ツールは、結構何処の地域でもあるもの

▶「しくみ：イベント化」の手法

・アートの旅が楽しい

オープスタジオ・ツアー、地域めぐり(バスツアーの手法:旅行会社とコラボ)を企画実施

・フェスティバルを部活動やワークショップとしてする、音楽部、美術部をつくり、それらがコラボする

市民のまきこみ方の基本は、市民のやる気、モチベーションづくりで、自ら参加するので、観客はいない

みんなで作る(だから文句もでない)、みんなで楽しむ時間を通じて、あり得ない風景ができれば、普通のものを超える

お客さんではだめで、市民が主体的にやることで、やっている人が楽しいイベント

・中心になる軸は、部活動だ

部活動(変な組織イメージを考えず学校時代のもので名付けている)、磁場になる人も加えると良い

・キュレーターは、もともとあるもの、もしくはできたものを編集している

→事務局として、拠点に美術館があれば強み

▶「拠点：たまり場」の条件

・不完全な場、不完全な人、不完全な店というのが必要な条件で、人に心配させるような、不完全だと思わせる事が大切、そうしたら一緒に作ろうという気持ちになる

→そこで、面白いことをやろうという出会いを何かつくればハッピー



STORY 2 アートなまちづくり戦略(原点・視点)

▶ 原点:アートなまちづくり

-まさか、こんなことになるうとは「あり得ない」

→ 予定調和ではだめ:アートは妄想力、美術の術をドロン(化けるもの)と読んでいる

-「何かやろうよ」から対話が始まる

例:酒造り(酒好きのアーティストと杜氏の出会いから酒造りプロジェクト「天祈り(てのり)」)開始



▶ 視点:アートなまちづくりで地域のPRに

-多層性:レイヤーを作る

→ 興味のチャンネル:関心のある人を惹きつけられるように色々なレイヤーを用意、特に若い人に任せることも

-光、土、風と共に種と水で、興味関心の種を育てる:光(スポットを当てて育てる)、土(地域住民)、風(アーティスト)、種(地域に存在するもの)、水(興味関心のある人)

→アートは、やはり誰とやるのが肝心



▶ 逆転の発想も、イイかも

-楽しめないのなら商品化(お金の流通)を考えてみるのもいい

以上、藤浩志語録(2015.3.22シンポジウム)から

▶ 十和田現代美術館

:地域に出かけて市民と共にアートに取り組むアウトリーチに力を入れている公立美術館。

:地域拠点でもあり、企画運営実行の実質的な事務局を兼ねているのが非常に力強い点

SPEAKER

藤 浩志

美術家、十和田市現代美術館長、秋田公立美術大学教授:京都市立芸術大学大学院美術研究科修士後、パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室を設立。「ヤセ犬の散歩」「お米のカエル物語」「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「藤島八十郎をつくる」等、各地で対話と地域実験の場を作る美術類のデモンストレーションを実践されている。 <http://geco.jp>



地域がささえる
アートとまちづくり
シンポジウム(2015.3.22)



▶ 柏原地域における今後の展開方向

「アートなまちづくりの構造」を踏まえ、しくみ、拠点、ツールを、柏原独自性を生かし組み立てていくことを目指す。そのため、当面の活動の中で、ビエンナーレ組織の在り方を含め多面的な研究を行い、行政との連携も踏まえ「より開かれたアートプロジェクト」として発展をすすめる。

▶ アンケートからの柏原ビエンナーレへの期待

-ワイン(地場産業との連携が有効)、ワイナリーや倉庫展示はとっかかり、祭りと連動できればもっとよい

-アートマーケット、アートへの価値観アップ、アーティストにもっとメリットがある方向へ考えて欲しい

-柏原には大学もいくつかあるので、大学や高校と連携した企画、また地元の若い方の参加が増えて欲しい

STORY 3

風と土の交響：琵琶湖高島

▶基本コンセプトは「出会いと対話の場」をつくること

オープンアトリエ訪問：もの作りに生きる人々(工芸作家、農家、古民家再生など)と作品に出会い、制作の現場と暮らしを巡り交流する企画

・具体的には制作ワークショップ、食べて味わうトーク座談会など
→高島らしい暮らしと生活環境を求めた若い人の移住定住の進展
→生きてくヒントは、助け合うこと

- ・11月末から12月はじめ金土日が2回：4400人(2014年)
- ・アートイベント参加者の来られる場所は京阪神から25%、県内44%
- ・若い人、多くの世代、リピータが多い：移住相談もある
- ・サポートスタッフ約30名(内20代が60%)：関西一円から
- ・パスポート1000円(会期中有効)

<http://kazetotsuchi.musubime.tv/>

SPEAKER

西川 唱子

特定非営利活動法人結びめ 事務局職員：滋賀県高島のNPOむすびめは、風と土と人を結び、定住促進の団体。過疎化を食い止めるため、作家等に移住や週末アトリエの仲立ちを通じて、定住促進を中心に地域の活性化に取り組んでいる



STORY 4

西宮船坂：ビエンナーレ2014

▶基本コンセプトは「アートが人を結ぶ」

兵庫県の西宮市船坂地域(中国縦貫道が通る西宮山口IC付近の山間部)で、過疎化の進む地域

→アートを通じて、身近な里山を巡って、野菜を味わい、地域住民のもてなしにふれてもらう、地域が作ったビエンナーレ

- ・2014年(第3回)は、24作品を展示(アーティストインレジデンスで芸術家が滞在し、住民とのコミュニケーションが深まる)
- ・10月中旬から1ヶ月、土日祝日には、パフォーマンスやライブイベント
- ・入場料500円、スタンプラリーで野菜が持って帰れるサービス
- ・行政：西宮市、兵庫県との共同事業として、財政支援を受けているが、事業は完全に地元で運営
- ・記録集の表紙は、緑の苔むし石の道祖神のような作品(晴眺雨防：柴辻健吾)：<http://funasaka-art.com/>

SPEAKER

藤井 達矢

美術家、西宮船坂ビエンナーレ2014総合ディレクター、のせでんアートライン妙見の森2015アートプロデューサー、武庫川女子大学准教授、宝塚市文化財団評議員、西宮市大谷記念美術館専門委員、2009年より人々の暮らしに寄り添う地域アートの意義を問い、齟齬の解決に奔走されている



04

みんなで楽しくまちづくり

ネットワーク型の地域活動：時間はかかるが、みんなの参加意欲や満足度は高まる。まずは月1回の井戸端会議からはじめよう。

STORY 1

地域の元気な女性のネットワーク：まちづくりの局面を変える

▶ 摂津のママさんの子連れでみんなで楽しむ「マミークリスタル」

摂津で毎年4500人も集める「まるごとマーケット」を8人のママさんの実行委員会が運営、47万円の事業資金の約8割は、自分らの手で企業から集める。代表の新田さんは、先生も生徒もママ子連れで楽しむ習い事ママサークルも主宰。モットーは、「もっと子育てが楽しい町」「自分らしくいられる活動ができる町」「未来の子供たちが誇れる元気な町」に。

▶ 地域での女性対男性の異なる対応は面白い

尼崎まちづくり懇談会で地域の支え合いは、必要だとの共通認識は一緒。しかし、その手法が異なる2つタイプが存在。男性は、自治会等組織意識が強いが、一方、女性は友人関係のネットワークでやる、このように分かれるは面白い。



STORY 2

日本の田舎をステキに変える！：徳島神山町

▶ ITで「創造的過疎」をつくる

かつては2万人いたが人口増は求めず、現在の人口5千人人が「幸せに暮らす」を追求。難視聴地域に光ファイバー網でTV視聴、そのインフラを利用して、空き家をITサテライトオフィスに人の移住を促進、地域内ではWi-Fi無線がどこでも使える



▶ グリーンバレーの大南さんの視点：できることからどんどんやる

→何でも無理・マイナス志向なアイデアキラーは、どの町にも必ずいる、それを排除して、できることやる
→人を引きつけるのに一般的ではだめ(若い人がいいとか、誰でも来て欲しい)ピンポイントで攻める
「移住・空屋情報」アクセスが多いことから、逆指名：例えば、情報発信のためのWebデザイナー、お釜で焼くパン屋(がらがらの商店街が埋まってきた)、オシャレなレストラン(アップルやめて開業)

▶ 「アーティストinレジデンス」が切り拓いた影響は大きい：アートが地域の人間関係をつなぐ

環境アートの作品づくりは1990年代半ばからスタート、田舎のコミュニティは閉鎖的だが、芸術家の招聘を契機にヨソ者に対してウエルカムに変化する

▶ 神山町・四国のグリーンバレーとは？非営利活動法人(NPO)

設立：2004年(前身の「神山町国際交流協会」は1992年設立)

ミッション：日本の田舎をステキに変える！

ビジョン：「人」をコンテンツとしたクリエイティブな田舎づくり、多様な人の知恵が融合する「せかいのかみやま」づくり、「創造的過疎」による持続可能な地域づくり

グリーンバレー・ウェイ(ものの考え方)：・できない理由より、できる方法を！・とにかく始めろ！(Just Do It!)

活動内容：アーティストの制作支援、中・長期旅行者の滞在支援、日本(特に四国)に関する情報発信、アートでまちづくり(アートによるまちづくりの推進)、地域経済の活性化や文化の促進、地域問題の解決とそのモデルの発信、自然や居住環境の改善、就業、起業の支援

in Kamiyamaホームページ(<http://www.in-kamiyama.jp>)

▶時代が変わった：ネットワーク社会への変化

カネと制度で社会を動かす時代＝近代から、ポスト近代へと時代の転換期を迎えている。

それは、自分のためが社会のためにつながるという志向、無理しない、頑張りすぎない思考であり、思考回路にも変化が生まれる。勝手な市民に勝手なことをさせない管理社会と、自律した市民が自らでつくる市民社会という社会像は、コンピュータの世界と同じような「集中管理」と「自立分散」であり、従来とは異なった「階層構造」と「ネットワーク」の構造に似ている。

(階層組織とネットワーク)

	階層組織型	ネットワーク型
構成員の関係性	上下関係	水平関係
意思決定	上層部で決定	みんなで考える(意思決定がないときも)
活動形態	指示・命令で一丸となって動く やらねばならないことを使命感で	自発的に、できること／やりたいことを行う やりたいことを楽しく
秩序形成	管理	自律
核となる人	リーダー：引っ張っていく 仕切る、 指示する短期間に答が必要な活動	ファシリテーター：気づきを促す みんなが動ける環境やきっかけをつくる 長続きさせる活動

▶ネットワーク社会のガバナンス：メンバーの主体的な関与

ネットワーク社会での活動展開の理念は、協働＝ガバナンス、ネットワーク型活動

ガバナンスとは、組織や社会に関与するメンバーが主体的に関与を行なう、意思決定、合意形成のシステム
ネットワークの最大の課題は、責任の所在があいまいになる。問題は管理が苦手の克服→自律がキーを握る
そこに登場するのは、みんなをその気にさせる人＝ファシリテーター

▶つながり力を高める：「自発性」が鍵

自発性はいかに高められるか：楽しさ・やりがいが大切：共感 ←→ アメとムチ

市民力・地域力の「力」とは？：資金力・権力ではなくネットワーク力

金持ちよりも人持ち、一人の力は小さいがつながっていくことで大きな力になるのがネットワーク

▶ネットワーク型の地域活動：時間はかかるが、みんなの参加意欲や満足度は高まる

ネットワーク形成(つながりづくり)のしかけ

<人> コーディネーター

<場・機会> プラットフォーム / まちづくり井戸端会議

<組織> まちづくり協議会

ワークショップなどに多くの住民が集まり、みんなで決めていく = ガバナンス

▶まちづくり井戸端会議のすすめ：場所をつくる、一緒にやる、誰がトップでもない

まちづくり井戸端会議で月に1回程度の意見交換・情報交換の場をもつ

出席したい人が出席したい時にでる：出入り自由、議題はみんなで持ち寄る、

合意形成を目的としない



TEACHER 久 隆 浩

近畿大学総合社会学部教授

まちプロ(まちづくりプロジェクト) 活動記録

歩み

年	月日	アウトプット	団体等	補助金	金額	参加者	事業
2008	H20 1.18	新しい柏原まちづくり基本計画	柏原市まちづくり基本計画委員会				
2009	H21 11.03	NPO法人まちづくりプロジェクト設立：趣意書					1
	11.07	まちプロホームページ開設					1
2010	H22 1.23	柏原水仙郷ウォーク第1回				350人	2
	07.01	柏原ええとこ再発見「My道標」づくり	(財)まちづくり市民財団	申請採択	500,000		3
	05.01	歩くことことから始めよう健康とまちづくり	柏原市	申請採択	370,000		4
	12.05	健康ウォーク宣言	健康ウォークinかしわら実行委員会				4
2011	H23 1.08	NPO法人まちづくりプロジェクト総会2011					1
	1.30	柏原水仙郷ウォーク第2回				150人	2
		健康ウォーク推進協議会発足	事務局：柏原市				4
	09.17	柏原ええとこ発見塾：森のガイドと玉手山探索					5
	10.08	柏原ええとこ発見塾：川に中に何がいますか？					5
2012	H24 1.08	NPO法人まちづくりプロジェクト総会2012					1
	2.07	柏原水仙郷ウォーク第3回					2
	2.26	かしわら水仙郷ウォークを育てる会発足	代表：奥田豊子				2
	03.10	観光まちづくりビジョン発表	観光まちづくりビジョン策定委員会				6
	05.30	ええとこわがまちKASHIWARAトリプル大作戦	柏原市	申請採択	100,000		7
	06.17	柏原ええとこ発見塾：鉄道写真講座					5
	07.24	おいな一れ柏原ネットワーク設立					6
	10.09	わがまち自慢プロジェクト	大阪府：新しい公共支援事業	申請採択	1,200,000		8
	11.13	柏原ええとこ発見塾：古紙再生工場					5
2013	H25 1.08	NPO法人まちづくりプロジェクト総会2013					1
	01.26	柏原水仙郷ウォーク2013	育てる会と共催				2
	2.03	ええとこわがまち円卓交流会2013	ええとこわがまちKASHIWARA委員会				8
	3.13	まちづくり物語	ええとこわがまちKASHIWARA委員会				8
	08.02	ええとこわがまちKASHIWARAトリプル大作戦	柏原市	申請採択	300,000		7
	10.24	柏原ええとこ発見塾：早川繊維					5
2014	H26 1.08	NPO法人まちづくりプロジェクト総会2014					1
	01.22	コットン井戸端会議					7
	2.08	柏原水仙郷ウォーク2014(中止)	育てる会と共催				2
	01.25	地域を育むワークショップスタート(3回開催)	ええとこわがまちKASHIWARA委員会				7
	02.26	柏原ええとこ発見塾：岡村製油					5
	03.22	ええとこわがまち円卓交流会2014	ええとこわがまちKASHIWARA委員会				7
	03.31	まちづくり一体型オガタ通り商店街活性化プラン	まちづくり一体型商店街活性化協議会				6
	05.30	ええとこわがまちKASHIWARAトリプル大作戦	柏原市	申請採択	238,000		7
	07.09	ぶどうワインフォーラム					7
	11.16	ワイン&アート2weeks柏原フェスタ	おいな一れ柏原、ビエンナーレなど				6
2015	H27 1.17	NPO法人まちづくりプロジェクト総会2015					1
	2.17	柏原水仙郷ウォーク2015	育てる会と共催				2
	3.07	商店街活性化とまちづくり井戸端会議	オガタ通り商店会と共催				7
	3.22	地域を支えるアートとまちづくりシンポジウム	柏原ビエンナーレ作家会と共催				7
	05.09	まちづくり物語2	ええとこわがまちKASHIWARA委員会				7
	05.09	まちプロ解散総会：まちづくりの到達点と展望	まちプロ総会と連動				1

事業区分	区分	事業区分名	担当
	1	まちプロ組織	
	2	水仙郷ウォーク	
	3	My道標整備事業	
	4	健康ウォーク事業	
	5	柏原ええとこ発見塾	
	6	まちづくり連携事業	
	7	ええとこわがまちKASHIWARAトリプル大作戦	
	8	大阪府新しい公共支援事業	

まちづくりに関するプロジェクトの企画やコーディネートを通じ、知識と人材と資源を有機的に結びつけ、地域をより「魅力あるまち」、「住みたいまち」に変貌させることを目標に、地域の活性化を推進しています。そのため「かしわら水仙郷」の新名所化、子供と共に「柏原ええとこ発見塾」の開催、「健康ウォーク」の事業の実施。かしわらの魅力発信に向けた「柏原物語」製作などわがまち自慢を集め・磨き・発信するプロジェクトやまちづくりの人、組織、財源など基盤づくりのため地域の多彩な団体と連携して推進しています。



電話	なし	目的	まちづくりの連携 支援の推進(中間支援型組織)
メール	jimu@machipro.org	場所	大阪府柏原市地域
HP	http://www.machipro.org/	設立	2009年11月
事務所	〒582-0018 大阪府柏原市大泉4丁目15-35 柏原市ボランティア・市民活動センター内	会員数	18名
		代表者	三宅 義雅

NPO法人まちづくりプロジェクト(まちプロ)は、2015年5月9日に解散総会で5年半の活動を終了した

「ええとこ・わがまちKASHIWARA」プロジェクトは、地域に潜在する有形無形の多種多様な資源・資産わがまちのええとこ・好きなのところを、市民が再発見・再認識し共有することで、わがまちとして思いや誇りを高め、その思いを戦略的に市内外に発信するものである。



ええとこ・わがまちKASHIWARA委員会

委員長:久隆浩(近畿大学教授)

構成員:学識経験者、大阪教育大学、関西福祉科学大学、柏原市商工会、柏原市、柏原市社会福祉協議会、NPO法人かしわらイネット、おいな一れ柏原ネットワーク、NPO法人まちプロ、かしわら環境会議
(委員会は、2012-10.27-2015.4.14の間、5回開催し、第5回をもって委員会は終了)

まちづくり物語2

ええとこ・わがまちKASHIWARA

まちづくりプロジェクト報告書

発行元

ええとこ・わがまちKASHIWARA委員会

発行年月日

2015年5月9日

デザイン基本設計

中島敦貴

報告書作成チーム

浅野幸治、西上康雄、大園あずさ

事務局

NPO法人まちづくりプロジェクト(まちプロ)